令和6年度 早良区地域包括ケア推進会議 議事録

- 1 日時 令和6年11月28日(木) 16:00~17:35
- 2 場所 早良市民センター 第1会議室
- 3 出席者 委員(19名出席)、関係課等(12名出席)、事務局(9名)、
傍聴なし

4 会議次第

I 開会
II 議題
1. 早良区における地域包括ケアシステムの推進
1) 早良区の高齢者の状況
2) 早良区版地域包括ケアの推進
2. 令和6年度 地域ケア会議等実施状況
1) 地域における会議の報告
2) 専門部会の報告 ①在宅医療・介護部会
②権利擁護部会
③生活支援・介護予防部会
3. 意見交換
4. 次年度の取組予定について
III その他
IV 閉会

5 会議経過

I 開会
【所長】 挨拶
【委員】 自己紹介
II 議題
1. 早良区における地域包括ケアシステムの推進
1) 早良区の高齢者の状況
【事務局】 参考資料4統計資料(別冊)をもとに説明 <意見質問等なし>
2) 早良区版地域包括ケアの推進
【事務局】 資料3~7頁 について説明 <意見質問等なし>
2. 令和6年度 地域ケア会議実施報告
1) 地域における会議の報告
【事務局】 個別支援会議・圏域連携会議 報告 高齢者地域支援会議 報告 <意見質問等なし>
2) 専門部会の報告
【事務局】 在宅医療・介護部会 報告
【事務局】 権利擁護部会 報告
【事務局】 生活支援・介護予防部会 報告 <意見質問等なし>

3. 意見交換 テーマ：認知症の単身高齢者の支援について

- 【事務局】** 各団体の皆様より、認知機能が低下している単身で暮らす高齢者に関する課題等について、ご意見をいただきたい。
- 【会長】** 65歳以上の単身高齢者は増えている。高齢者が増えるということは認知症も増えてくる。早期発見が重要である。
- 【委員】** (専門医を)受診する方は、既に様々な問題が起り家族や周囲の方が気づき促されて受診されることが多い。初期段階(MCI)を採血で調べる検査を行うこともあるが、自身の将来が心配と受診される方は多くない。
- 大切なのは、家族から受診の説得や信頼関係のある精神科以外のプライマリケアの先生方からの声掛けである。声掛けからの紹介がスムーズであると思う。
- 【委員】** 地域の方が気づいても、本人が希望されなければ進んでいかない難しさを感じている。早期発見のためには、地域包括支援センターを知ってもらう取り組みが必要であると感じる。
- 【委員】** 介護相談を受ける中で、相談者の方が心配となることがある。気持ちの拠り所となればと様々な提案をするが、認知症について受容できる状況に至っていない。相談を受ける側として、地域包括支援センターなど関係機関へ情報提供を行うことで早期発見に繋がると思う。
- 【事務局】** 地域包括支援センターから連絡してもらうことを提案し、同意を得て繋いでいただいた方が、その後の支援もスムーズにいくと考えている。
- 【委員】** 成年後見制度は、法制審議会が開かれ2027年を目途に大幅に変更される予定。後見人がつくると、亡くなるまでの間継続することが一般的であったが、今後は必要に応じ裁判所が期間を定めたり、スポット的に後見をつけたりと、恒常的なシステムから単発的なシステムになる予定
- 【委員】** 些細な変化であるが、薬を作る時間を待てなくなる、飲み忘れが増える等の事例は主治医へ相談することがある。本人が気づいていない状態で、認知症の恐れがあるという情報を地域包括支援センターへ連絡をすることのハードルは高く、個人情報の観点からも難しい部分がある。
- 【委員】** 認知症の初期段階は口の中に現れる。今までよく歯を磨いていた方が急に口の中が汚れてくることがある。また、アポイントを忘れることが続くと認知症が進んできたと感じる。専門医への紹介を行うことはできる。
- 【委員】** 認知症に関する検査の検討をお願いしたい。
- 【委員】** 気軽に歯周病チェックなど是可以するが、「認知症チェック」を実施した場合、結果を誰がどのように伝えるかが難しい。
- 【委員】** 一般的なスクリーニング検査の実施が、認知症の啓蒙活動となり認知症に対する意識(障壁)が下がらないかという気持ちがある。失われていく自分の能力に対する不安や悲しみは、なった人にしか分からない。認知症の告知は、特に早期の方や40~50代の方に対しては非常に難しい。
- 【委員】** 行方不明事案を取り扱うことがある。認知症の本人が居なくなったと相談を受け、GPSを所持していたことで、すぐに発見に至った事例がある。概ね翌日までには発見できるが、見つからないこともあるため、スマートフォンやGPS等を身に付けていただけたらと感じる。

【委員】	救急隊は、平成 29 年度から認知症の方へのコミュニケーション技法である『ユマニチュード研修』を全員受講している。認知症など意思疎通が難しい方の場合もコミュニケーションが取りやすくなっているという感想は聞いている。
【会長】	認知症の受容については、数十年前の「がん」と似ていると感じた。がんと診断されることが怖いという方が多かったが、早期発見早期治療のために「がん検診」を受けることが当たり前になってきた。治療法が進んできたこともあるかと思う。
【委員】	アルツハイマー型認知症の薬も出てきているが、誰にでも使えるものではなくハードルが高い。
【会長】	認知症の早期発見は、進行を遅らせることに結びつくことになると思う。在宅で穏やかに過ごすためには、周囲のサポートがあると良いと感じる。
【委員】	地域では、様々な方が見守り活動をされ、公民館や地域包括支援センターへつなぐことも出来ている。周囲の方が安心することと本人の安心が繋がらないこともある。実際に見守っている方への支援についても課題と感じる。
【委員】	民生委員は地域のボランティアとして、高齢者に関わる機会が一番多いと思う。繋ぐことを基本にしており、身近な繋ぎ先として地域包括支援センターへ連絡している。
【委員】	高齢者施設を利用することで、体調が整い認知症状が和らぎ生活リズムが戻る場合もある。利用に繋がった際は、安心して安全な生活ができるよう支援を行うため活用いただきたい。
【委員】	取組みが若者の目に留まるよう Instagram 等に掲載する工夫もできると思う。「こども 110 番」のように、発展させた仕組みができれば、住民の意識が変わりみんなで支えていくという気持ちとなり、連絡・相談しやすくなると感じる。
【委員】	病院では、単身高齢者の方の救急搬送が非常に増えている。遠方の家族や身寄りがない方も増えており、期限がある中で行政や施設と連携を図りながら支援していくことが大事になってくる。
【会長】	救急で受け入れた後に、何らかの形で地域の病院で引き受けていくことができるようなシステムを早良区としても作っていきたいと考えている。
【委員】	地域活動のお誘いをしても希望されず、地域の関りが無い単身の方が孤独死した事例がある。その後、雨戸が開かない時には近隣の方に知らせてもらうこととした。非常に効果のある取り組みと感じている。認知症の家族は、外出すると非常に体調が良い。できる限り、ふれあいサロンなど外出できるよう声掛けをしている。
【会長】	認知症は、いつ誰でも将来的になり得る可能性のあるもの。若い方や家族を含めた啓蒙活動を続けることで、認知症に対してのイメージが変わり開かれた社会へと方向が変わっていくのではないか。地域包括ケア推進会議等を継続し地域や行政、専門職がお互い連携をとりながら問題点を共有していくことが重要である。
4. 次年度の取組みについて	
【事務局】	次年度の取組みについて 報告
Ⅲ その他	
意見 なし	
Ⅵ 閉会	
【事務局】	